

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成19年12月解析分)

1 疾患別定点情報

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成19年11月分(平成19年10月29日～12月2日:5週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	414	0.72	0.13	↑	12	ヘルパンギーナ	34	0.09	0.06	◇
2	RSウイルス感染症	64	0.18	-	↑	13	麻疹	0	0.00	0.00	
3	咽頭結膜熱	190	0.53	0.24	↑	14	流行性耳下腺炎	55	0.15	0.89	→
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	292	0.81	1.07	↗	15	急性出血性結膜炎	2	0.02	0.02	
5	感染性胃腸炎	3,209	8.91	8.88	↑	16	流行性角結膜炎	69	0.73	0.95	↗
6	水痘	511	1.42	1.48	↑	17	細菌性髄膜炎	2	0.02	0.02	
7	手足口病	62	0.17	0.22	↗	18	無菌性髄膜炎	2	0.02	0.07	
8	伝染性紅斑	28	0.08	0.15	↗	19	マイコプラズマ肺炎	16	0.15	0.24	→
9	突発性発しん	206	0.57	0.55	→	20	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
10	百日咳	13	0.04	0.02	↑	21	成人麻疹	1	0.01	0.00	
11	風しん	1	0.00	0.01		「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成19年11月分(11月1日～11月30日)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
22	性器クラミジア感染症	51	2.22	1.68	◇	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	116	5.52	5.16	→
23	性器ヘルペスウイルス感染症	15	0.65	0.50	◇	27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	36	1.71	2.65	↗
24	尖圭コンジローマ	12	0.52	0.56	→	28	薬剤耐性緑膿菌感染症	4	0.19	0.39	
25	淋菌感染症	20	0.87	0.86	◇	「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

急増疾患 インフルエンザ (6件 414件)
急増疾患 RSウイルス感染症 (16件 64件)
急増疾患 咽頭結膜熱 (77件 190件)
急増疾患 感染性胃腸炎 (1,357件 3,209件)
急増疾患 水痘 (149件 511件)
急増疾患 百日咳 (6件 13件)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について,県内178の定点医療機関からの報告を集計し,作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～14	15,16	22～25	17～21,26～28	
定点数	43	72	19	23	21	178

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	36	結核(広島市保健所(9),福山市保健所(7),呉市保健所(6),広島地域保健所(3),芸北地域保健所(3),尾三地域保健所(5),福山地域保健所(3))
三類	24	腸管出血性大腸菌感染症(O157)(2)(広島市保健所(1),呉市保健所(1)) 腸管出血性大腸菌感染症(O145)(22)(福山市保健所)
四類	12	レジオネラ症(3)(尾三地域保健所(2),福山市保健所(1)),日本紅斑熱(2)(尾三地域保健所) つつが虫病(7)(広島市保健所(5),芸北地域保健所(1),東広島地域保健所(1))
五類全数	5	アメーバ赤痢(1)(広島市保健所),ウイルス性肝炎(B型)(1)(広島地域保健所) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(1)(東広島地域保健所) 後天性免疫不全症候群(2)(広島市保健所),

3 一般情報

(1) インフルエンザの流行状況について

広島県内の今シーズン(平成19年~20年)のインフルエンザの流行状況は、第48週(11月26日~12月2日)に、定点医療機関当たりの報告数が1.71(報告患者数197人)となり、流行の目安としている1.0を上回りました。

全国の定点医療機関当たりの患者数は、広島県より1週間早い第47週(11月19日~25日)に1.53となりました。昨年と比較して約1月早い流行の始まりとなっています。今後、急速に本格的な流行期に向かうものと考えられ注意が必要です。

予防対策

- ・ 外出時には、マスクを着用し人ごみはなるべく避けましょう。
- ・ 外出先から帰宅したら、うがいと手洗いを励行しましょう。
- ・ 栄養バランスのとれた食事をとり、体調を整えましょう。
- ・ 室内は、加湿器などを使って、適度な湿度(50~60%)を保ちましょう。
- ・ インフルエンザかなと思ったら、安静にし、早めに医療機関を受診しましょう。

ひろげるなインフルエンザ ひろげよう咳エチケット

平成19年度厚生労働省インフルエンザ総合対策標語

(2) 咽頭結膜熱について

咽頭結膜熱はプール熱と呼ばれ、プールでの感染が多くみられる夏場に流行する感染症です。平成19年は第46週(11月12日~18日)頃から患者報告数が増加しはじめ、11月の報告数(190人)と比較しても、前月(77人)から急増しています。特に備北地域保健所管内で患者数の増加が目立ち、幼稚園の1クラスで咽頭結膜熱による学級閉鎖がありました。今後の流行状況に注意が必要です。

症状等

発熱、咽頭炎、結膜炎を主な症状とする小児の急性ウイルス感染症で、アデノウイルスを病原体とします。潜伏期間は5~7日で、患者からのウイルスの飛沫感染や経結膜、経口的に感染します。感染すると発熱し、頭痛、食欲不振、全身倦怠感とともに、咽頭炎による咽頭痛、結膜炎に伴う結膜充血、眼痛、流涙等の症状が3~5日間続きます。

予防対策

- うがい・手洗いを励行しましょう。
- 患者との密接な接触をさけ、タオル等の共用は避けましょう。

(3) 新型インフルエンザ対策について

世界的に家禽や野鳥の鳥インフルエンザ(H5N1)の流行が広がる中、鳥インフルエンザウイルスの変異で、人から人への感染を引き起こす新型インフルエンザの発生が危惧されています。新型インフルエンザウイルスに対して、人は免疫を持っていないため、世界的な大流行を起こし、大規模な健康被害と社会経済への影響が生じることが懸念されています。

こうした中、12月10日厚生労働省は、中国(江蘇省南京市)で鳥インフルエンザ(H5N1)の人から人への感染疑い事例について情報提供を行い、中国江蘇省地域からの帰国者、入国者の検疫体制を強化しました。また、WHO等からの情報収集の強化と適切な対応を行うこととしています。

鳥インフルエンザ(H5N1)が流行している地域に渡航される方は、鳥との接触を避けてください。万一、流行地域の市場などで鳥と接触し、帰国後、インフルエンザ様の症状がみられた方は、医療機関を受診する前に、必ず保健所に電話で連絡をしてください。

広島県の主な新型インフルエンザ対策

- ・ 県民や医療関係者等に対する迅速で適切な情報の提供
- ・ 新型インフルエンザの迅速な検査体制の整備
- ・ 新型インフルエンザが発生した場合の医療提供体制の確保
- ・ 抗インフルエンザウイルス薬の計画的な備蓄